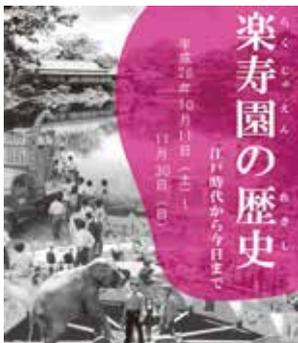


郷土資料館だより

Vol.37 No.2
2014. 12. 1

企画展 「楽寿園の歴史—江戸時代から今日まで」

- 会 期 平成26年10月11日（土）～ 11月30日（日）
- 会 場 郷土資料館1階 企画展示室



江戸時代、小浜池周辺は寺社や墓地が広がる静かな土地であり、小浜池から流れ出る水は蓮沼川や源兵衛川を通じて近隣地域の農業や生活に欠かせないものでした。今回の企画展は、現在市立公園楽寿園として市民の皆様に親しまれている小浜池周辺の歴史を、江戸時代から現在まで、歴史資料や写真パネル等でご紹介しました。

〈主な展示資料〉

「偕楽園泉頭館」設立計画関連資料／小松宮彰仁親王関係資料／梅御殿杉戸絵・戸袋絵／李王世子恩賜賞硯箱・賞状／楽寿園のあゆみ（写真）ほか

今回の企画展準備中、小松宮別邸の建物について興味深い事実が判明しました。この調査の経緯について、ここで少しご紹介します。

きっかけは、インターネットで見たこの一文です。修禅寺（伊豆市修善寺）の庭園公開についてレポートされたもので、「皇族小松宮彰仁親王の別邸（現在の三島楽寿園）を1905（明治38）年に拝領、移築し、修禅寺方丈、書院としたのを機に、庭園を造り始めました。」とありました。これまで楽寿園について書かれたものにはある程度目を通してきましたが、全くの初耳です。早速調査することにしました。

しかし、楽寿園や修禅寺に関する資料を図書館で探す範囲では情報が得られず、三島の歴史に詳しい関係者の方々にも質問していたところ、修禅寺ご住職から貴重な情報を得ることができました。

修禅寺で、昭和5年から隔月で発行されていた雑誌「修禅」に掲載されていた当時の住職、丘球学老師の著述をまとめた書『般若台禅話』の中に、別邸移築の件が述べられていました。

「般若台、鶴夢楼、書院は明治三十八年に、老僧が（宗潭大和尚）、三島にあった、小松宮様の御別邸を申受けられたものだ。（中略）これらの建物の中で、鶴夢楼は、宮様のお居間だった。」

文中の「宗潭大和尚」とは、修禅寺三十七世丘宗潭老師です。筆者の丘球学老師は、大正4年に宗潭老師の法を嗣ぎ住職となった人物であり、かなり近い時代の証言と言えます。

移築された建物について、前述の書では「宮様のお居間だった」と語られていますが、詳細は不明です。図1は、緒明氏が所有していたころ（昭和2年以降）の建物の様子を描いた平面図ですが、移築されたのは明治38年であり、この平面図に書かれている建物以外のものが、小松宮所



図1：緒明家旧平面図



図2：小松宮彰仁親王揮毫の扁額

有時代には存在していたこととなります。現在、小松宮所有時代の別邸建物の様子がわかる資料は確認できず、今後調査ができれば報告いたします。

また、移築に至った経緯なども残念ながら明らかではありませんが、本堂正面には小松宮の揮毫による「桂谷温泉開闢霊場」の扁額（図2）が掲げられており、小松宮と修禅寺には生前より何らかの関係があったものと推測できます。また明治時代には、有栖川宮が修禅寺を祈願所とし、先祖の位牌などを納めており、皇族とのゆかりは深かったものといえます。



上：現在の鶴夢楼（手前）、般若台（奥）

築された建物とほぼ同じ間取りで、本堂と棟続きに建てられており、鶴夢楼は客人の応接に、般若台は住職の居室兼応接間として使用されているとのこと。

般若台、鶴夢楼から望む庭は、皇太子（のちの大正天皇）から東海第一の名園と賞賛された名園です。当時のまま残された美しい庭園は秋に特別公開されており、小松宮別邸の趣を残す建物とともに明治の風情を今に伝えています。

宗潭老師の時代には、般若台、鶴夢楼のほか、講堂・籠堂の新築、梵鐘・鐘楼の新造、本堂の屋根を瓦葺きに改めるなど、堂宇が整えられていきました。皇族がたの訪問も多く、明治39年にのちの昭和天皇、秩父宮、高松宮の三皇孫が、翌40年にはのちに大正天皇となる皇太子が行啓されています。

現在の修禅寺住職、吉野真常老師によると、移築された建物は老朽化によって平成2～3年頃に取り壊され、同じ場所に新しく「般若台」「鶴夢楼」を建築したとのことでした。ともに移

企画展「郷土資料館収蔵美術品展」報告

- **会 期** 平成26年7月19日（土）～9月15日（月・祝）
- **会 場** 郷土資料館1階企画展示室
- **展示資料数** 49点
- **入場者数** 7,990人

今回の収蔵美術品展では、郷土ゆかりの芸術家やその作品に親しんでもらうため、収蔵資料の中から「絵画、墨跡、工芸品」などを中心に展示をおこないました。絵画は、小松宮ゆかりの品である梅御殿の杉戸絵の中から、「郭子儀図」「藤図」「秋草鶉図」の3点、三島出身の洋画家、栗原忠二の絵画「月島の月」ほか1点を展示し、その他、南画家、佐竹永邨の日本画を展示しました。墨蹟は、龍澤寺の名僧山本玄峰老師と中川宋淵老師の二人の墨蹟を採り上げ、工芸品として三島出身の人形作家野口三四郎の「三四呂人形」を展示しました。美術品ばかりでの展示は珍しく、来館者の目を楽しませていました。



関連事業

- ◆「三四呂人形のぬり絵にちょうせん！」会期中開催 参加人数 228人

三四呂人形のぬり絵を企画展示室内に用意し自由に参加してもらい、完成したぬり絵は展示室内に掲示し、参加者には記念品（三四呂人形の絵葉書）をプレゼントしました。また、ぬり絵参加者の中から抽選で10名に、複製三四呂人形をプレゼントしました。

三島の歴史とジオポイント・2

一本覚寺・七面堂の石燈籠

楽寿園に南接する本覚寺境内の七面堂前には、江戸時代に作られた石燈籠が一对あります。竿には「奉納・石燈爐（左）、石燈籠（右）」「七面大□□宝前（共通）」「寛政4年（1792）壬子5月吉日（共通）」「願主・久保町剣持清・（右）、人名削除（左）」などと彫り込まれています。

七面堂は法華経の守り神「竜神・七面天女」を祀るお堂で、以前は本覚寺の鬼門の位置、現在の楽寿園の中心部、職員作業・休息所付近にありましたが、明治23年に小松宮様の別邸造営時に撤去され、多数の墓石と共に現在地に移築されました。

楽寿園内の「常盤の森」は、約1万年前に富士山から流れ下った三島溶岩流末端部の原地形をよく残していますが、江戸時代には七面堂の境内でした。森を構成する樹木が若いのはそのためです。現在はアラカシなどの照葉樹を中心に二次遷移が進行中です。

七面堂は、江戸後期の有名な旅行ガイドブック・五街道中細見記（1858年）や三嶋大明神総社之図（1825年）にも載っています。当時は東海道・三島宿の観光名所で、三島女郎衆にも篤く信仰され、縁日は盛況だったそうです（資料館だよりVol18・3）。

1806年に江戸幕府が作成した「東海道分間延絵図」や「矢倉沢通見取絵図」にも七面堂が描かれており、共に境内入口には一对の石燈籠が確認できます。

東海道分間延絵図に描かれた三島宿内の石燈籠は三嶋大社5基、西見附1基、七面堂2基。矢倉通見取絵図では三嶋大社9基、七面堂2基、だけです。

三島宿内で街燈として石燈籠が多数設置されたのは天保年間（1840年頃）以降です。

石燈籠の石材は右側の中台（斜長石の目立つ灰色の火山岩製）以外は、全てが現在の伊豆の国市・北江間地区から産出した「江間石」（長岡凝灰岩上部層・数百万年以上前、伊豆半島が南海の火山島群だった頃、噴火で海底に堆積した火山灰が固結したもの）です。三島宿内や田方平野部の古い石燈籠の過半はこれを使用しています。

2基の石燈籠は宝珠・笠・中台・竿が共に破損しています。安政大地震（1854年）では七面堂も全壊したようです（地震二付道中御奉行所へ御注進・1854年）。石燈籠も倒れ破損したでしょう。

火袋は竿と同質の江間石ですが、新しく作り直されています。右側の火袋には「田町・石平」と彫られています。北伊豆地震（1930年）でも壊れたため、石工の石平氏が作り直し奉納したものでしょう。岩質の異なる右側の中台はこの時、別の石燈籠の中台を使ったのかもしれません。

なお、「七面大□□宝前」と2字が削られているのは、移築時には神仏分離が徹底し「七面大明神」ではお寺に移築出来なかったのでしょう。

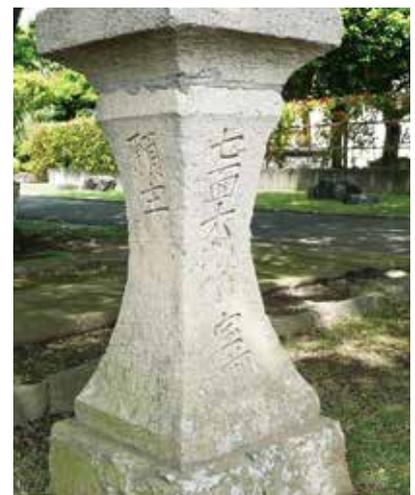
市内に多数存在する古い石燈籠を調べると、それぞれが「三島の歴史」や「伊豆のジオ」や「過去の地震被害」などを語ってくれます。大切にしましょう。（郷土資料館運営委員 増島淳）



本覚寺・七面堂と石燈籠



東海道分間延絵図に描かれた七面堂



明神が削られている

郷土教室・体験イベントの報告

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。平成26年7月から10月までに行った事業をご紹介します。



郷土教室「楽寿園の自然」

日 程：平成26年7月13日（日）
内 容：葉っぱの拓本、どんぐりで遊ぼう
溶岩の顕微鏡観察、溶岩めぐりツアー
参加者：60人



郷土教室「夏休み体験デー 古代の暮らし」

日 程：平成26年8月6日（水）
内 容：勾玉づくり、火おこし、土器当てクイズ
& 古代人風衣装を着よう
参加者：53人



郷土教室「昔のあそび・昭和の暮らし」

日 程：平成26年8月10日（日）
内 容：ぶんぶんコマづくり、けん玉・コマ遊び、
夏に関する昭和の道具にふれてみる
参加者：22人



郷土教室「夏休み体験デー 機織り体験」

日 程：平成26年8月23日（土）
内 容：郷土資料館の機織り機で裂き織りの体験
事前申込制、定員有
参加者：9人



郷土教室「クラフトづくり」

日 程：平成26年8月23日（土）
内 容：木や枝をつかったクラフトづくり
参加者：16人



郷土教室「昔のどうぐ」

日 程：平成26年9月14日（日）
内 容：石臼、製麵機、棹ばかり、台ばかりの体験
参加者：63人



郷土教室「昔のあそび」

日 程：平成26年10月12日（日）

内 容：折り紙で遊ぼう、ぶんぶんコマづくり、
けん玉・コマ遊び

参加者：32人

今後の郷土教室予定（毎月第2日曜日）

開催時間 10:00～12:00、13:00～14:30

みなさまの参加をお待ちしています。

日付	内容
12月14日	ワラ細工を作ろう
1月11日	昔のあそび 羊の編みぐるみづくり (要申込み・先着16名、対象:小学生以上、 小3以下は保護者同伴)
2月8日	昔のどうぐ
3月8日	楽寿園の自然

ふるさと講座「伊豆半島ジオパーク探訪③」報告

- 開催日時 平成26年10月11日（土） 午前9時～午後3時30分
- 講 師 静岡地学会東部支部長 増島 淳先生
- 見学地 「伊豆半島ジオパーク」のうち三島溶岩流に関わる
5ヶ所（楽寿園・鮎壺の滝・割狐塚稻荷・景ヶ島・
五竜の滝）
- 参加者 22人



今回の講座は、平成24年度から3ヶ年にわたる開催計画の第3回目として、「伊豆半島ジオパーク探訪③三島溶岩流の観察」と題し、三島及び近隣の歴史・文化等について理解を深めることを目的に開催しました。当日は、台風の接近が心配されましたが好天に恵まれ、静岡県地学会東部支部長の増島先生の案内のもと、参加された方々はとても熱心に説明を聞き、間近に見た景ヶ島や五竜の滝などの三島溶岩流の迫力に感動されていました。

寄贈資料の紹介

平成26年8月から10月までに下記の資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

三島市 花鳥 信氏 花鳥家写真資料21点／実測図2点

三島市 増田 岳夫氏 カメラ「フジペット」・テープレコーダー・小型テレビなどの戦前から昭和30年代頃にかけての電化製品・機械類 12点

三島市 土屋 寿山氏 カメラ・距離計・三脚・巻尺 各1点（市史編さん事業関連資料）

三島市 長野 幸子氏 李王賞硯箱（南国民学校） 1点



カメラ「フジペット」



李王賞硯箱

カメラ「フジペット」は昭和30年代に販売された初心者向けカメラで、子どもや女性にも扱いやすく、シリーズ全体で100万台近くも販売されました。

李王賞硯箱は、大正時代に現在の楽寿園を別邸としていた李王世子垣殿下が市内の小学校に下賜した奨学金を基に創設され、優秀な生徒へ贈られた「李王賞」の副賞です。

郷土資料館運営協議会視察研修

●と き 平成26年10月17日（金）

●視察先 周智郡森町の町並みや家並み、天宮神社、友田家住宅、橘谷山大洞院、小國神社

郷土資料館運営協議会では、委員の研鑽と先進館の事例研究を兼ねて毎年視察研修を行っています。今年度は遠州の小京都といわれる森町の「遠江国一宮小國神社」や国指定重要文化財「友田家住宅」、「天宮神社」の国指定重要無形民俗文化財の「十二段舞楽」で使われていた江戸時代初期に製作された面装束等を見学し、現在も先人たちが守り続けてきた郷土の歴史や文化を伝承し、森町の郷土文化として深く根付いていることに感銘を受けました。



森町教育委員会



天宮神社



小國神社

刊行図書のご案内

『中島 落合家文書史料集』 10月31日 刊行 頒布価格 1,000円

落合家は、近世の中島村（現在の三島市中島）で名主を勤めた家で、同家に伝わる古文書は「落合家文書」として三島市の文化財に指定され、現在郷土資料館に収蔵されています。

今回落合家文書の中から、三島市内に残るもっとも早い時期の検地帳である「豆州君沢郡中嶋郷御縄打水帳」（天正18年）など、近世初期から明治初期にかけての史料19点を解読し、史料集にまとめました。

用水関連史料や一年を通じての農作業日記、村の概要が書かれた差出帳など、近世農村の様子を詳細に知ることができ、地域史研究には欠かせない一冊です。ぜひご一読ください。

右上：「豆州君沢郡中嶋郷御縄打水帳」天正18年

右下：「乍恐書付ヲ以奉願上候（手乱堰破損ニ付普請願）」寛政10年



郷土資料館のご利用案内

〒411-0036

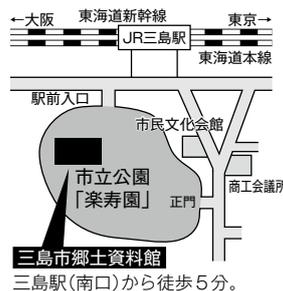
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内

TEL055-971-8228 FAX055-971-6045

開館時間 午前9時～午後5時（4月～10月）
午前9時～午後4時30分（11月～3月）

休館日 毎週月曜日（祝日のときは翌日）/
年末年始

入館料 無料（ただし楽寿園入園料が必要）



郷土資料館だより

vol.37 No.2（第110号）

発行日 平成26年12月1日（年3回発行）

編集 三島市郷土資料館

発行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/